

令和4年度 学校関係者評価報告書

大阪市立南恩加島小学校 学校協議会

1. 総括についての評価

- ・本年度の学校の自己評価結果は妥当である。
- ・いじめは100%解決されているとあったが、児童の中では自分がいじめをしていると思っていない子もいる。自分の口では訴えることやアンケート等で出てこない「ひそんだいじめ」があるので、学校は家庭との連携、児童に目配りを行いいじめについてこれまで以上に取組んでもらいたい。また、いじめはなぜいけないのかを指導し倫理面での指導も必要である。また、社会ではスマートホンでのトラブルやいじめが後を絶えない学校でもSNSやインターネットを扱ううえでのメディアリテラシーを育てて欲しい。
- ・あいさつ指導は、低学年からの積み重ねが重要である。進んでしようとする児童が増えているため、取り組みの継続が必要である。
- ・学習について、単元単元で学習が途切れてしまわないように授業以外にも基礎基本が定着するように取り組んでほしい。また、算数では、そろばんなどに力を入れ計算力を高める取り組みを行っていけばよい。
- ・朝食の喫食率が高いのはよい傾向ではある。三品は食べるとか、家族揃って食べる等ができれば尚よいが、家庭の様々な事情があり、厳しい状況がある。家庭と連携して取り組んでいく必要がある。家庭での家族団らんの中で学校での会話や親子でのコミュニケーションをとれるような働きかけが必要である。

2. 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 学校アンケートの「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 学校アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。

- 学校アンケートの「避難訓練の時には、避難訓練のルールを守れている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする
- 令和4年度の小学校学力経年調査、学校アンケートの「自分にはよいところがあるとおもいますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を30%以上にする。

- ・いじめは100%解決されているとあったが、児童の中では自分がいじめをしていると思っていない子もいる。自分の口では訴えることやアンケート等で出てこない「ひそんだいじめ」があるので、学校は家庭との連携、児童に目配りを行いいじめについてこれまで以上に取組んでもらいたい。また、いじめはなぜいけないのかを指導し倫理面での指導も必要である。また、社会ではスマートホンでのトラブルやいじめが後を絶えない学校でもSNSやインターネットを扱ううえでのメディアリテラシーを育てて欲しい。
- ・「学校の決まり・規則を守っていますか」の肯定的評価は90%であり、目標を上回っている。引き続き学校でも決まりを守る取り組みを続けて欲しい。しかし、不登校の課題は年々多様化し、複雑化していることから、継続して学校組織全体で総力を挙げて課題解決を目指し取り組んで欲しい。
- ・暴力行為や不登校については、継続して課題解決を目指し取り組んで欲しい。

年度目標【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を30%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を50%以上にする。

学校園の年度目標

- 令和4年度の小学校学力経年調査の平均正答率7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も令和3年度よりより1ポイント減少させる。
- 令和4年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、全て大阪市平均を上回らせる。
- 規則正しい生活を身に付けている児童の割合（全国学力・学習状況調査・学校アンケート）

トの「朝食を食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して肯定的な回答をする割合)を令和4年度調査において上述すべて項目で85%以上にする。

- ・中学年でも掛け算や加減の計算が苦手意識やつまづきを持った児童を見かける、学年が上がるにつれ授業についていけなくなる児童も多くなる。日々の取り組みの中で基礎基本の計算力や読解力を定着せせる取り組み(算数であればそろばんなど)を行い基礎基本の定着に努めてほしい。
- ・朝食の喫食率である程度成果がみられた。早寝・朝ごはんの取り組みを、保護者も巻き込んですすめたことで、習慣化するように取り組みを継続してもらいたい。家庭の状況が複雑化する中、今後も保護者の協力を求めながら、取り組みを継続してもらいたい。

年度目標【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標(小・中学校)

- ・令和4年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について「ほぼ毎日」と回答する児童の割合を80%にする。
- ・学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業日については1日以上設定する。

学校園の年度目標

- ・令和4年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を前年度より増加させる。

- ・児童の端末の使用は定着してきていることがわかった。しかし、運動場で遊ぶ児童や好んで読書に親しむ児童がこれ以上減らないようにICT機器活用と運動とのバランスのとれた取り組みを考えてほしい。

3. 今後の学校園の運営についての意見

- ・児童も登校時間が早くなり、地域の方にあいさつする児童が増えるというよい傾向がみられる。本地域には、素直な子が多いため、そのよさが失われないような教育活動がすすめられることを期待する。
- ・学校だけでなく、家庭の教育力向上も重要である。協力する保護者が増えるよう、ねばり強く連携していくことが必要である。特にあらい言葉使いやスマートホンの使い方などモラルについて取り組みを行って欲しい。
- ・昨年に比べ国語の力は向上したが、漢字の読み書きをはじめ、個に応じた指導をより充

実させ、基礎・基本の定着をさせ長文を読みこなしたり、短く文にまとめたりする力を身につけさせる取り組みを引き続きすすめてもらいたい。また、算数科においては、最低限「数と計算」の領域に力を入れ、基礎学力を高めていく取り組みを進めてほしい。そろばんなどに力をいれ計算力が高まる取り組みを行ってほしい。

- 日々の教育活動を充実させ、本年度課題であった項目について改善して行ってほしい。